官報 號外
明治二十二年二月十一日 月曜日

大日本帝國憲法

內閣官報局

告文

皇朕レ謹ミ畏ミ
皇祖
皇宗ノ神靈ニ誥ケ白サク皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ顧ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク
皇祖
皇宗ノ遺訓ヲ明徵ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ内ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ增進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ皆
皇祖
皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラス而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ擧行スルコトヲ得ルハ洵ニ
皇祖
皇宗及我カ
皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ
皇祖
皇宗及
皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ愆ラサラムコトヲ誓フ庶幾クハ
神靈此レヲ鑒ミタマヘ

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス

惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威德ト竝ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ卽チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ奬順シ相與ニ和衷協同シ益〻我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ卽チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ增進シ其ノ懿德良能ヲ發達セシメムコトヲ願ヒ又其ノ翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十四日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財產ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍內ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有效ナラシムルノ期トスヘシ

將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼統ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名御璽

明治二十二年二月十一日

內閣總理大臣 伯爵黑田淸隆
樞密院議長 伯爵伊藤博文
外務大臣 伯爵大隈重信
海軍大臣 伯爵西鄕從道
農商務大臣 伯爵井上馨
司法大臣 伯爵山田顯義

大藏大臣兼内務大臣　伯爵松方正義
陸軍大臣　伯爵大山巖
文部大臣　子爵森有禮
遞信大臣　子爵榎本武揚

大日本帝國憲法

第一章　天皇

第一條　大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第二條　皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

第三條　天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條　天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

第五條　天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ

第六條　天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

第七條　天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

第八條　天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條　天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ增進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條　天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其ノ條項ニ依ル

第十一條　天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條　天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條　天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條　天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス
戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第十五條　天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス
第十六條　天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス
第十七條　攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル
攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章　臣民權利義務

第十八條　日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル
第十九條　日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得
第二十條　日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス
第二十一條　日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス
第二十二條　日本臣民ハ法律ノ範圍內ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス
第二十三條　日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ
第二十四條　日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルヽコトナシ
第二十五條　日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラルヽコトナシ
第二十六條　日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルヽコトナシ
第二十七條　日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルヽコトナシ
公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル
第二十八條　日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス
第二十九條　日本臣民ハ法律ノ範圍內ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス
第三十條　日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得
第三十一條　本章ニ揭ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ
第三十二條　本章ニ揭ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限リ軍人ニ準行ス

第三章　帝國議會

第三十三條　帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條　貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條　衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條　何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條　凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第三十八條　兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條　兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

第四十條　兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條　帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條　帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條　臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條　帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條　衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選擧セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條　兩議院ハ各々其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條　兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條　兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ祕密會ト爲スコトヲ得

第四十九條　兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條　兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條　兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲クルモノヽ外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條　兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演説刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條　兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルヽコト

ナシ

第五十四條　國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章　國務大臣及樞密顧問

第五十五條　國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條　樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章　司法

第五十七條　司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條　裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルヽコトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條　裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條　特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條　行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章　會計

第六十二條　新ニ租税ヲ課シ及税率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手數料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條　現行ノ租税ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徴收ス

第六十四條　國家ノ歳出歳入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條　豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條　皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ每年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來增額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條　憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條　特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條　避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條　公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ內外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條　帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條　國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計檢査院之ヲ檢査確定シ政府ハ其ノ檢査報告ト倶ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計檢査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章　補則

第七十三條　將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

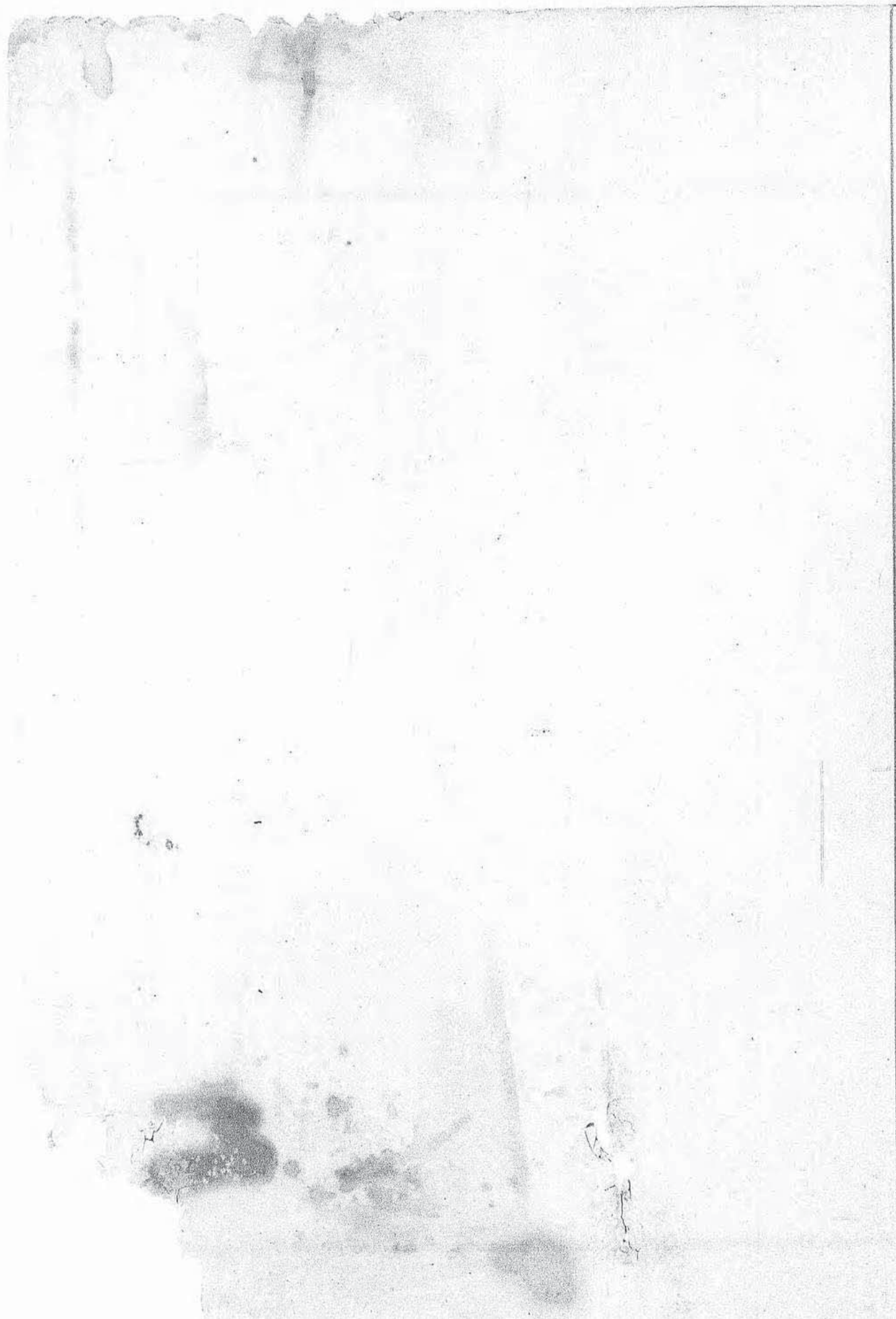
此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各〻其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條　皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條　憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條　法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヰタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

物価号外

官報　號外
明治二十二年二月十一日　月曜日　內閣官報局

○法律

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各〻本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

御名御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣　伯爵黑田清隆
樞密院議長　伯爵伊藤博文
外務大臣　伯爵大隈重信
海軍大臣　伯爵西鄕從道
農商務大臣　伯爵井上馨
司法大臣　伯爵山田顯義
大藏大臣兼內務大臣　伯爵松方正義
陸軍大臣　伯爵大山巖
文部大臣　子爵森有禮
遞信大臣　子爵榎本武揚

法律第二號

議院法

第一章　帝國議會ノ召集成立及開會

第一條　帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條　議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條　衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各三名ノ候補者ヲ選擧セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラルヽマテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條　各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ毎部々長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第五條　兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條　前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章　議長書記官及經費

第七條　各議院ノ議長副議長ハ各一員トス

第八條　衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條　衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條　各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條　議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條　議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條　各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條　各議院ニ於テ議長副議長倶ニ故障アルトキハ假議長ヲ選擧シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條　各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラルヽマテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條　各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條　書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事錄及其ノ他ノ文書案ヲ作リ事務ヲ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條　兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章　議長副議長及議員歲費

第十九條　各議院ノ議長ハ歲費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歲費ヲ受クルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歲費ヲ辭スルコトヲ得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歲費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歲費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第四章　委員

第二十條　各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス
常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選擧シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス
特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選擧ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選擧ス
常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス
議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ
但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラルヽモノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得
議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條　帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
第三十六條　閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ擧行スヘシ

第七章　祕密會議

第三十七條　各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得
一　議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ
二　政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ
第三十八條　議長又ハ議員十人以上ヨリ祕密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用ヰスシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ
第三十九條　祕密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

第八章　豫算案ノ議定

第四十條　政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ
第四十一條　豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章　國務大臣及政府委員

第四十二條　國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス
第四十三條　議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得
第四十四條　委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ說明ヲ求ムルコトヲ得
第四十五條　國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラス
第四十六條　常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ
第四十七條　議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章　質問

第四十八條　兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ贊成者アルヲ要ス
質問ハ簡明ナル主意書ヲ作リ贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ
第四十九條　質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サヽルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ
第五十條　國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章　上奏及建議

第五十一條　各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條　各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章　兩議院關係

第五十三條　豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條　甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條　乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條　兩院協議會ハ兩議院ヨリ各〻十人以下同數ノ委員ヲ選擧シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取リ又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條　國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條　兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條　兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用ヰ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條　兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各〻一員ヲ互選シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條　本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章　請願

第六十二條　各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條　請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條　請願委員ハ請願文書表ヲ作リ其ノ要領ヲ錄シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條　各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條　法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス
第六十七條　各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス
第六十八條　請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス
第六十九條　請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用井政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用井ルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス
第七十條　各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス
第七十一條　各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス

第十四章　議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條　各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス
第七十三條　各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス
第七十四條　各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ祕密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ
第七十五條　各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章　退職及議員資格ノ異議

第七十六條　衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス
第七十七條　衆議院ノ議員ニシテ選擧法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス
第七十八條　衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ
第七十九條　裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス
第八十條　議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラルヽニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ於テハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六章　請暇辭職及補闕

第八十一條　各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請暇ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス
第八十二條　各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ屆出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス
第八十三條　衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得
第八十四條　何等ノ事由ニ拘ヲス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ內務大臣ニ通牒シ補闕選擧ヲ求ムヘシ

第十七章　紀律及警察

第八十五條　各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條　各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條　會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條　議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條　傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條　議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條　各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論説ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條　各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用ヰルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ渉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條　議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章　懲罰

第九十四條　各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條　各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條　懲罰ハ左ノ如シ

一　公開シタル議場ニ於テ譴責ス

二　公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム

三　一定ノ時間出席ヲ停止ス

四　除名

第九十七條　衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條　議員ハ三十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得
懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ
第九十九條　議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルニ由リ若ハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選擧法及附錄ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ帝國議會ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ選擧ヲ施行セシムヘキコトヲ命ス

御名　御璽

明治二十二年二月十一日

內閣總理大臣　伯爵黑田清隆
樞密院議長　伯爵伊藤博文
外務大臣　伯爵大隈重信
海軍大臣　伯爵西鄉從道
農商務大臣　伯爵井上馨
司法大臣　伯爵山田顯義
大藏大臣兼內務大臣　伯爵松方正義
陸軍大臣　伯爵大山巖
文部大臣　子爵森有禮
遞信大臣　子爵榎本武揚

法律第三號
衆議院議員選擧法

第一章　選擧區畫

第一條　衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選擧區ニ於テ之ヲ選擧セシム其ノ選擧區及各選擧區ニ於テ選擧スヘキ定員ハ此ノ法律

ノ附錄ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　府縣知事ハ其ノ府縣ノ選擧區ノ選擧ヲ監督ス

一選擧區ノ選擧ハ郡長又ハ市長其ノ選擧長トナリ之ヲ管理ス

第三條　一選擧區ニシテ數郡市ニ渉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ命シ選擧長タラシムヘシ

第四條　一市ノ域內ニ於テ數選擧區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選擧長タラシムヘシ

第五條　選擧ニ關ル費用ハ地方税ヲ以テ支辨スヘシ

第二章　選擧人ノ資格

第六條　選擧人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一　日本臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歲以上ノ者

第二　選擧人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣內ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者

第三　選擧人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣內ニ於テ直接國税十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得税ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第七條　家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ハ其ノ財産ニ付前財産主ノ納税額ヲ以テ其ノ納税資格ニ算入ス

第三章　被選人ノ資格

第八條　被選人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ選擧人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ選擧府縣內ニ於テ直接國税十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得税ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第九條　宮內官裁判官會計檢査官收税官及警察官ハ被選人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ議員ト相兼ヌルコトヲ得

第十條　府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域內ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十一條　選擧ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選擧區ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十二條　神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第十三條　府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選擧セラレ當選ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章　選擧人及被選人ニ通スル規定

第十四條　左ノ項ノ一ニ觸ルヽ者ハ選擧人及被選人タルコトヲ得ス

一　瘋癲白癡ノ者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三　公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

四　禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五　舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六　賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七　選擧ニ關ル犯罪ニ由リ選擧權及被選權ノ停止中ノ者

第十五條　陸海軍軍人ハ現役中選擧權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條　華族ノ當主ハ衆議院議員ノ選擧人及被選人タルコトヲ得ス

第十七條　刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選擧權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五章　選擧人名簿

第十八條　選擧長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ於テ選擧資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ

選擧人名簿ハ選擧人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國税ノ總額竝ニ納税地ヲ記載スヘシ

第十九條　市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

第一　一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選擧區ト爲シタル場合ニ於テハ選擧長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二　市内ニアル數區ヲ合シテ一選擧區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ選擧長ニ差出サシムヘシ

第三　郡市ヲ合シテ一選擧區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ選擧長トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四　第三ノ場合ニ於テ市長其ノ選擧長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二十條　選擧人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國税ヲ納ムルトキハ納税地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ選擧人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票ヲ管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條　選擧長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル選擧人名簿ヲ合シ一選擧區ヲ以テ一冊トシ選擧管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條　選擧長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選擧區選擧人名簿ノ寫ヲ其ノ選擧管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縱覽セシムヘシ

第二十三條　凡テ選擧資格アル者選擧人名簿ニ於テ人名ノ脫漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ縱覽期限内ニ選擧長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得

縱覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第二十四條　選擧長ニ於テ脫漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選擧區内ニ告示スヘシ

第二十五條　選擧長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告

人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選擧區内ニ告示スヘシ

第二十六條　申立人又ハ被告人ニ於テ選擧長ノ判定ニ服セサルトキハ選擧長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條　始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條　前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條　選擧人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ据置クヘシ但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選擧長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取リタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選擧區内ニ告示スヘシ

第六章　選擧ノ期日及投票所

第三十條　選擧ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時選擧ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條　投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス

第三十二條　一町村ニ於テ選擧人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所竝ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條　町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選擧人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遲クトモ選擧ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選擧ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七章　投票

第三十四條　投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條　投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之ヲ管守シ其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條　町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選擧人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虚ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條　選擧人ハ選擧ノ當日本人自ラ投票所ニ至リ選擧人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條　投票用紙ハ各府縣各一定ノ式ヲ用ヰ選擧ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各選擧人ニ交付スヘシ選擧人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シテ捺印スヘシ

第三十九條　選擧人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ツルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條　二人以上ノ議員ヲ選擧スヘキ選擧區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條　選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ記載セラルヘキ裁判言渡書ヲ所

持シ選擧ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ
第四十二條　投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス
第四十三條　町村長ハ投票明細書ヲ作リ投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ
第四十四條　町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ選擧管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ
第四十五條　一選擧區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ選擧ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選擧會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章　選擧會

第四十六條　選擧會ハ選擧管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク
第四十七條　選擧長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選擧委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ
第四十八條　選擧長ハ投票函送達ノ翌日選擧委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選擧明細書ニ記載スヘシ
第四十九條　總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選擧長ハ選擧委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ
第五十條　各選擧區ノ選擧人ハ其ノ選擧會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得
第五十一條　左ニ揭クル投票ハ無効トス
一　選擧人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
二　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ
三　選擧人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ
四　資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス
五　誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選擧人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用ヰ又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス
六　第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用ヰタルモノハ此ノ限ニ在ラス
第五十二條　投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選擧委員ノ意見ヲ聞キ選擧長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選擧會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
第五十三條　無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選擧明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ
第五十四條　一投票ニシテ其ノ選擧スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末

尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ選擧スヘキ定員ニ足ヲサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條　投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條　選擧ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條　選擧長ハ選擧明細書ヲ作リ選擧點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選擧委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

第九章　當選人

第五十八條　投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條　當選人定マリタルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條　府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管內ニ告示スヘシ

第六十一條　當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條　一人ニシテ數選擧區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選擧區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條　當選人其ノ府縣內ニ在ル者ハ十日以內其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以內ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サヽルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十四條　當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭シ又ハ期限內ニ其ノ當選ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ選擧ノ期日ヲ定メ其ノ選擧長ニ命シ再ヒ選擧ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第六十五條　各選擧區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管內ニ告示シ竝ニ當選人ノ資格ヲ錄シテ內務大臣ニ具申スヘシ

第十章　議員ノ任期及補闕選擧

第六十六條　議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選擧ニ應スルコトヲ得

第六十七條　議員ノ闕員アルニ由リ內務大臣ヨリ補闕選擧ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ闕員ノ選擧區ニ限リ臨時選擧ヲ行ヒ補闕議員ヲ選擧セシムヘシ

第六十八條　補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章　投票所取締

第六十九條　投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得
第七十條　凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス
第七十一條　選擧人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス
第七十二條　投票所ニ於テハ一切ノ演說討論及喧譟ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス
第七十三條　投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ
第七十四條　投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ內ニ呼入ルヽコトヲ得
第七十五條　投票所ニ參會シタル選擧人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ
第七十六條　投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
第七十七條　選擧管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選擧會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ選擧長之ヲ處分スヘシ

第十二章　當選訴訟

第七十八條　各選擧區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ揭ケタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以內ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得
其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ
第七十九條　原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金三百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ
第八十條　原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ七日以內ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徵スヘシ
第八十一條　同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判言渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得
第八十二條　審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ
第八十三條　原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
第八十四條　控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ
當選訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス
第八十五條　控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書ノ謄本ヲ內務大臣ニ送付スヘシ若衆議院開會ス

ルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

第八十六條　當選訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條　訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條　當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノヽ外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章　罰則

第八十九條　納税額年齢住所及其ノ他選擧資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選擧人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選擧人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條　直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選擧人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サヽル者亦同シ

第九十二條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選擧人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條　選擧人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條　選擧人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選擧會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條　選擧ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選擧會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條　多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁獄ニ處ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條　演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依

ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス
第九十八條　戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ投票所若ハ選擧會場ニ入リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十九條　當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス
第百條　他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選擧人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス
第百一條　前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選擧權及被選權ヲ停止ス
第百二條　立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第百三條　本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各〻其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス
第百四條　凡テ選擧ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス
第百五條　此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選擧會場ニ貼示スヘシ

第十四章　補則

第百六條　市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選擧ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ
第四條ノ場合ニ於テハ一選擧區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選擧ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ
第百七條　前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選擧區内ニ於ケル選擧人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遲クトモ選擧ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選擧ノ當日選擧管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ」立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ
此ノ場合ニ於ケル選擧明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ
第百八條　島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選擧長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ
第百九條　町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戸長之ヲ掌ルヘシ
第百十條　選擧人名簿調製ノ初年ニ限リ所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ
第百十一條　北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ準行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セス

東京府　議員總數十二人

選擧區	區域	議員數
第一區	麴町區　麻布區　赤阪區	一人
第二區	芝區	一人
第三區	京橋區	一人
第四區	日本橋區	一人
第五區	本所區　深川區	一人
第六區	淺草區	一人
第七區	神田區	一人
第八區	下谷區　本郷區	一人
第九區	小石川區　牛込區　四谷區	一人
第十區	東多摩郡　南豐島郡　北豐島郡	一人
第十一區	南足立郡　南葛飾郡	一人
第十二區	荏原郡　伊豆七島	一人

京都府　議員總數七人

選擧區	區域	議員數
第一區	上京區	一人
第二區	下京區	一人
第三區	愛宕郡　葛野郡　乙訓郡　紀伊郡	一人
第四區	宇治郡　久世郡　相樂郡　綴喜郡	一人

區	郡區	人數
第五區	南桑田郡　北桑田郡　船井郡　天田郡　何鹿郡	二人
第六區	加佐郡　與謝郡　中郡　竹野郡　熊野郡	一人

大阪府　議員總數十八人

區	郡區	人數
第一區	西區	一人
第二區	東區　北區	一人
第三區	南區	一人
第四區	西成郡　東成郡　住吉郡	二人
第五區	島上郡　島下郡　豐島郡　能勢郡	一人
第六區	茨田郡　交野郡　讚良郡　河內郡　若江郡　高安郡	一人
第七區	石川郡　八上郡　古市郡　安宿部郡　錦部郡　丹南郡　志紀郡　丹北郡　大縣郡　澁川郡	一人
第八區	堺區　大鳥郡　泉郡	一人
第九區	南郡　日根郡	一人

神奈川縣　議員總數七人

區	郡區	人數
第一區	橫濱區	一人

區	郡區	人數
第二區	久良岐郡　橘樹郡　都筑郡	一人
第三區	南多摩郡　西多摩郡　北多摩郡	二人
第四區	三浦郡　鎌倉郡	一人
第五區	高座郡　愛甲郡　津久井郡	一人
第六區	大住郡　淘綾郡　足柄上郡　足柄下郡	一人

兵庫縣　議員總數十二人

區	郡區	人數
第一區	神戸區	一人
第二區	武庫郡　菟原郡　川邊郡　有馬郡	一人
第三區	多紀郡　氷上郡	一人
第四區	八部郡　明石郡　美嚢郡	一人
第五區	加古郡　印南郡	一人
第六區	加東郡　多可郡　加西郡	一人
第七區	飾東郡　飾西郡　神東郡　神西郡	一人
第八區	揖東郡　揖西郡　赤穂郡　佐用郡　宍粟郡	二人
第九區	城崎郡　美含郡　氣多郡　出石郡　七美郡　二方郡　養父郡　朝來郡	二人

第十三區	津名郡 三原郡	一人

長崎縣　議員總數七人

區	郡區	人數
第一區	長崎區 西彼杵郡	二人
第二區	東彼杵郡 北高來郡	一人
第三區	南高來郡	一人
第四區	北松浦郡 壹岐郡 石田郡	一人
第五區	南松浦郡	一人
第六區	上縣郡 下縣郡	一人

新潟縣　議員總數十三人

區	郡區	人數
第一區	新潟區 西蒲原郡	一人
第二區	北蒲原郡 東蒲原郡 巖船郡	二人
第三區	中蒲原郡	一人
第四區	南蒲原郡	一人
第五區	古志郡 三島郡	二人
第六區	刈羽郡	一人
第七區	北魚沼郡 南魚沼郡 中魚沼郡 東頸城郡	二人
第八區	中頸城郡 西頸城郡	二人
第九區	雜太郡 加茂郡 羽茂郡	一人

埼玉縣　議員總數八人

區	郡	人數
第一區	北足立郡、新座郡	一人
第二區	入間郡、高麗郡、横見郡、比企郡	二人
第三區	南埼玉郡、北葛飾郡、中葛飾郡	二人
第四區	北埼玉郡、大里郡、幡羅郡、榛澤郡、男衾郡	二人
第五區	兒玉郡、賀美郡、那珂郡、秩父郡	一人

群馬縣　議員總數五人

區	郡	人數
第一區	東群馬郡、南勢多郡、利根郡、北勢多郡	一人
第二區	新田郡、山田郡、邑樂郡	一人
第三區	佐位郡、那波郡、綠野郡、多胡郡、南甘樂郡	一人
第四區	西群馬郡、片岡郡、吾妻郡	一人
第五區	北甘樂郡、碓氷郡	一人

千葉縣　議員總數九人

區	郡	人數
第一區	千葉郡、市原郡	一人
第二區	東葛飾郡、印旛郡、下埴生郡、南相馬郡	二人
第三區	香取郡	一人

區	郡	人數
第四區	海上郡 匝瑳郡	一人
第五區	山邊郡 武射郡	一人
第六區	夷隅郡 上埴生郡 長柄郡	一人
第七區	望陀郡 周准郡 天羽郡	一人
第八區	安房郡 平郡 朝夷郡 長狹郡	一人

茨城縣　議員總數八人

區	郡	人數
第一區	東茨城郡 鹿島郡 行方郡	二人
第二區	多賀郡 久慈郡 那珂郡	二人
第三區	西茨城郡 眞壁郡	一人
第四區	豐田郡 結城郡 岡田郡 西葛飾郡 猿島郡	一人
第五區	筑波郡 新治郡	一人
第六區	信太郡 河内郡 北相馬郡	一人

栃木縣　議員總數五人

區	郡	人數
第一區	河内郡 芳賀郡	一人
第二區	上都賀郡 下都賀郡 寒川郡	二人
第三區	安蘇郡 足利郡 梁田郡	一人
第四區	鹽谷郡 那須郡	一人

奈良縣　議員總數四人

區	郡	人數
第一區	添上郡 添下郡 山邊郡 廣瀬郡 平群郡	一人
第二區	式上郡 式下郡 宇陀郡 十市郡 高市郡 葛上郡 葛下郡 忍海郡	二人
第三區	宇智郡 吉野郡	一人

三重縣　議員總數七人

區	郡	人數
第一區	安濃郡 一志郡	一人
第二區	三重郡 鈴鹿郡 奄藝郡 河曲郡	一人
第三區	桑名郡 員辨郡 朝明郡	一人
第四區	飯高郡 飯野郡 多氣郡	一人
第五區	度會郡 答志郡 英虞郡 北牟婁郡 南牟婁郡	二人
第六區	阿拜郡 山田郡 名張郡 伊賀郡	一人

愛知縣　議員總數十一人

區	郡	人數
第一區	名古屋區	一人
第二區	愛知郡	一人
第三區	東春日井郡 西春日井郡	一人
第四區	丹羽郡 葉栗郡	一人

區	郡	人數
第五區	中島郡	一人
第六區	海東郡 海西郡	一人
第七區	知多郡	一人
第八區	碧海郡 幡豆郡	一人
第九區	額田郡 西加茂郡 東加茂郡	一人
第十區	北設樂郡 南設樂郡 寶飯郡	一人
第十一區	渥美郡 八名郡	一人

靜岡縣　議員總數八人

區	郡	人數
第一區	安倍郡 有渡郡	一人
第二區	富士郡 庵原郡	一人
第三區	志太郡 益津郡	一人
第四區	榛原郡 佐野郡 城東郡	一人
第五區	周智郡 豐田郡 山名郡 磐田郡	一人
第六區	長上郡 敷知郡 濵名郡 引佐郡 麁玉郡	一人
第七區	那賀郡 賀茂郡 君澤郡 田方郡 駿東郡	二人

山梨縣　議員總數三人

區	郡	人數
第一區	西山梨郡 北巨摩郡 中巨摩郡	一人

區	郡	議員數
第二區	東山梨郡 南都留郡 北都留郡	一人
第三區	東八代郡 西八代郡 南巨摩郡	一人

滋賀縣　議員總數五人

區	郡	議員數
第一區	滋賀郡 高島郡	一人
第二區	甲賀郡 野洲郡 栗太郡	一人
第三區	犬上郡 愛知郡 神崎郡 蒲生郡	二人
第四區	西淺井郡 東淺井郡 伊香郡 阪田郡	一人

岐阜縣　議員總數七人

區	郡	議員數
第一區	厚見郡 方縣郡 各務郡	一人
第二區	不破郡 安八郡	一人
第三區	海西郡 下石津郡 多藝郡 上石津郡 羽栗郡 中島郡	一人
第四區	大野郡 池田郡 本巣郡 席田郡 山縣郡	一人
第五區	武儀郡 郡上郡	一人
第六區	加茂郡 可兒郡 土岐郡 惠那郡	一人
第七區	大野郡 益田郡 吉城郡	一人

長野縣　議員總數八人

區	郡	議員數
第一區	上水內郡 更級郡	一人
第二區	下水內郡 上高井郡 下高井郡	一人

區	郡	人數
第三區	小縣郡　埴科郡	一人
第四區	西筑摩郡　東筑摩郡　南安曇郡　北安曇郡	二人
第五區	南佐久郡　北佐久郡	一人
第六區	上伊那郡　諏訪郡	一人
第七區	下伊那郡	一人

宮城縣　議員總數五人

區	郡	人數
第一區	仙臺區　名取郡　宮城郡	一人
第二區	柴田郡　刈田郡　伊具郡　亘理郡	一人
第三區	黒川郡　加美郡　志田郡　玉造郡　遠田郡	一人
第四區	栗原郡　登米郡	一人
第五區	桃生郡　牡鹿郡　本吉郡	一人

福島縣　議員總數七人

區	郡	人數
第一區	信夫郡　伊達郡	一人
第二區	安達郡　安積郡	一人
第三區	田村郡　巖瀨郡　東白川郡　西白河郡　石川郡	二人
第四區	南會津郡　北會津郡　大沼郡　耶麻郡　河沼郡	二人
第五區	菊多郡　磐前郡　磐城郡　楢葉郡　標葉郡　行方郡　宇多郡	一人

巖手縣　議員總數五人

區	郡	議員
第一區	南巖手郡　北巖手郡　紫波郡　二戸郡	一人
第二區	東閉伊郡　中閉伊郡　北閉伊郡　南九戸郡　北九戸郡	一人
第三區	稗貫郡　東和賀郡　西和賀郡　西閉伊郡　南閉伊郡	一人
第四區	江刺郡　膽澤郡　氣仙郡	一人
第五區	西磐井郡　東磐井郡	一人

青森縣　議員總數四人

區	郡	議員
第一區	東津輕郡　上北郡　下北郡　三戸郡	二人
第二區	北津輕郡　南津輕郡	一人
第三區	中津輕郡　西津輕郡	一人

山形縣　議員總數六人

區	郡	議員
第一區	南村山郡　東村山郡　西村山郡	二人
第二區	東置賜郡　南置賜郡　西置賜郡	一人
第三區	飽海郡　西田川郡　東田川郡	二人
第四區	最上郡　北村山郡	一人

秋田縣　議員總數五人

區	郡	議員
第一區	南秋田郡	一人
第二區	山本郡　北秋田郡　鹿角郡	一人
第三區	河邊郡　由利郡	一人
第四區	仙北郡　平鹿郡　雄勝郡	二人

福井縣　議員總數四人

區	郡	人數
第一區	足羽郡 大野郡	一人
第二區	吉田郡 阪井郡	一人
第三區	南條郡 今立郡 丹生郡	一人
第四區	三方郡 遠敷郡 大飯郡 敦賀郡	一人

石川縣　議員總數六人

區	郡	人數
第一區	金澤區 石川郡	二人
第二區	能美郡 江沼郡	一人
第三區	河北郡 羽咋郡 鹿島郡	二人
第四區	鳳至郡 珠洲郡	一人

富山縣　議員總數五人

區	郡	人數
第一區	上新川郡 婦負郡	二人
第二區	下新川郡	一人
第三區	射水郡	一人
第四區	礪波郡	一人

鳥取縣　議員總數三人

區	郡	人數
第一區	邑美郡 法美郡 巖美郡 八上郡 八東郡 智頭郡	一人
第二區	高草郡 氣多郡 河村郡 久米郡 八橋郡	一人
第三區	汗入郡 會見郡 日野郡	一人

島根縣　議員總數六人

選挙區	郡	議員數
第一區	島根郡　秋鹿郡　意宇郡	一人
第二區	能義郡　仁多郡　大原郡　飯石郡	一人
第三區	出雲郡　楯縫郡　神門郡	一人
第四區	邇摩郡　安濃郡　邑智郡	一人
第五區	那賀郡　美濃郡　鹿足郡	一人
第六區	周吉郡　穩地郡　海士郡　知夫郡	一人

岡山縣　議員總數八人

選挙區	郡	議員數
第一區	岡山區　御野郡　上道郡　邑久郡　兒島郡	二人
第二區	津高郡　赤阪郡　磐梨郡　和氣郡	一人
第三區	都宇郡　窪屋郡　賀陽郡　下道郡	一人
第四區	淺口郡　小田郡　後月郡	一人
第五區	上房郡　川上郡　哲多郡　阿賀郡	一人
第六區	眞島郡　大庭郡　西西條郡　西北條郡　東南條郡　東北條郡	一人
第七區	勝北郡　勝南郡　吉野郡　英田郡　久米北條郡　久米南條郡	一人

廣島縣　議員總數十八人

區	郡區	人數
第一區	廣島區 安藝郡	二人
第二區	佐伯郡	一人
第三區	沼田郡 高宮郡 山縣郡	一人
第四區	高田郡 三次郡 三谿郡	一人
第五區	加茂郡	一人
第六區	豐田郡	一人
第七區	御調郡 世羅郡	一人
第八區	深津郡 沼隈郡 安那郡	一人
第九區	蘆田郡 品治郡 神石郡 甲奴郡 奴可郡 三上郡 惠蘇郡	一人

山口縣　議員總數七人

區	郡區	人數
第一區	吉敷郡 美禰郡 厚狹郡 佐波郡	二人
第二區	阿武郡 見島郡 大津郡	一人
第三區	赤間關區 豐浦郡	一人
第四區	都濃郡 熊毛郡 大島郡	二人
第五區	玖珂郡	一人

和歌山縣　議員總數五人

區	郡區	人數
第一區	和歌山區 名草郡 海部郡 有田郡	二人

第二區　伊都郡　那賀郡　一人

第三區　日高郡　西牟婁郡　東牟婁郡　二人

德島縣　議員總數五人

第一區　名東郡　勝浦郡　一人

第二區　那賀郡　海部郡　一人

第三區　名西郡　阿波郡　麻植郡　一人

第四區　板野郡　一人

第五區　美馬郡　三好郡　一人

香川縣　議員總數五人

第一區　香川郡　山田郡　小豆郡　一人

第二區　大內郡　寒川郡　三木郡　一人

第三區　鵜足郡　阿野郡　一人

第四區　多度郡　那珂郡　一人

第五區　豐田郡　三野郡　一人

愛媛縣　議員總數七人

第一區　溫泉郡　和氣郡　風早郡　野間郡　久米郡　伊豫郡　下浮穴郡　二人

第二區　越智郡　桑村郡　周布郡　一人

第三區　喜多郡　上浮穴郡　一人

區	郡	人數
第四區	新居郡　宇摩郡	一人
第五區	西宇和郡　東宇和郡	一人
第六區	南宇和郡　北宇和郡	一人

高知縣　議員總數四人

區	郡	人數
第一區	土佐郡　長岡郡	一人
第二區	幡多郡　高岡郡　吾川郡	二人
第三區	香美郡　安藝郡	一人

福岡縣　議員總數九人

區	郡	人數
第一區	福岡區　怡土郡　志摩郡　早良郡	一人
第二區	糟屋郡　宗像郡　那珂郡　御笠郡　席田郡　上座郡　下座郡　夜須郡	二人
第三區	遠賀郡　鞍手郡　嘉麻郡　穂波郡	一人
第四區	御井郡　御原郡　山本郡　生葉郡　竹野郡	一人
第五區	三瀦郡　上妻郡　下妻郡	一人
第六區	山門郡　三池郡	一人
第七區	企救郡　田川郡	一人

區	郡	人數
第八區	京都郡 仲津郡 築城郡 上毛郡	一人

大分縣　議員總數六人

區	郡	人數
第一區	大分郡	一人
第二區	北海部郡 南海部郡	一人
第三區	大野郡 直入郡	一人
第四區	速見郡 玖珠郡 日田郡	一人
第五區	西國東郡 東國東郡	一人
第六區	下毛郡 宇佐郡	一人

佐賀縣　議員總數四人

區	郡	人數
第一區	佐賀郡 神崎郡 小城郡 基肄郡 養父郡 三根郡	二人
第二區	東松浦郡 西松浦郡	一人
第三區	杵島郡 藤津郡	一人

熊本縣　議員總數八人

區	郡	人數
第一區	熊本區 飽田郡 託麻郡 宇土郡	二人
第二區	玉名郡	一人
第三區	山鹿郡 山本郡 菊池郡 合志郡 阿蘇郡	二人
第四區	上益城郡 下益城郡	一人

區	郡	人數
第五區	八代郡　葦北郡　球磨郡	一人
第六區	天草郡	一人

宮崎縣　議員總數三人

區	郡	人數
第一區	宮崎郡　北那珂郡　南那珂郡　兒湯郡	一人
第二區	北諸縣郡　西諸縣郡　東諸縣郡	一人
第三區	東臼杵郡　西臼杵郡	一人

鹿兒島縣　議員總數七人

區	郡	人數
第一區	鹿兒島郡　谿山郡　北大隅郡　熊毛郡　馭謨郡	一人
第二區	給黎郡　揖宿郡　頴娃郡　川邊郡	一人
第三區	日置郡　阿多郡	一人
第四區	高城郡　出水郡　南伊佐郡　薩摩郡　甑島郡	一人
第五區	菱刈郡　姶良郡　桑原郡　西囎唹郡　北伊佐郡	一人
第六區	南諸縣郡　南大隅郡　肝屬郡　東囎唹郡	一人
第七區	大島郡	一人

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣　伯爵黑田清隆
樞密院議長　伯爵伊藤博文
外務大臣　伯爵大隈重信
海軍大臣　伯爵西鄕從道
農商務大臣　伯爵井上馨
司法大臣　伯爵山田顯義
大藏大臣兼內務大臣　伯爵松方正義
陸軍大臣　伯爵大山巖
文部大臣　子爵森有禮
遞信大臣　子爵榎本武揚

法律第四號

會計法

第一章　總則

第一條　政府ノ會計年度ハ每年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
一會計年度所屬ノ歲入歲出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條　租稅及其ノ他一切ノ收納ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條　各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條　各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノヽ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第二章　豫算

第五條　歲入歲出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條　歲入歲出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ
總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ
第一　各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ
第二　其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歲入歲出現計書

第七條　豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ
第一豫備金

第二豫備金

第三十四條　豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第八條　豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條　每年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第三章　收入

第十條　租稅及其ノ他ノ歲入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歲入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章　支出

第十一條　每會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條　國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條　國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條　國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條　國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一　國債ノ元利拂

第二　軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三　在外各廳ノ經費

第四　前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五　運輸通信ノ不便ナル內國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六　廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七　場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八　各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

第五章　決算

第十六條　會計檢查院ノ檢查ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ樣式ヲ用井左ノ事項ノ計算ヲ

明記スヘシ

歳入ノ部
歳入豫算額
調定濟歳入額
收入濟歳入額
收入未濟歳入額
歳出ノ部
歳出豫算額
豫算決定後増加歳出額
仕拂命令濟歳出額
翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計檢査院ノ檢査報告ト倶ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省決算報告書
第二 國債計算書
第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サヽルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ルヽモノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ルヽモノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歳計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遲延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ヲサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年

度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各〻之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルヽコトヲ得

第八章　政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條　法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競爭ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競爭ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一　一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ルヽトキ

第二　政府ノ所爲ヲ祕密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三　非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競爭ニ付スル暇ナキトキ

第四　特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五　特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ルヽトキ

第六　土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七　五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八　見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ

第九　軍艦ヲ買入ルヽトキ

第十　軍馬ヲ買入ルヽトキ

第十一　試驗ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ルヽトキ

第十二　慈恵ノ爲ニ設立セル救育所ノ貧民ヲ傭役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ルヽトキ

第十三　囚徒ヲ傭役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ルヽトキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ルヽトキ

第十四　政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈恵教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

第二十五條　軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章　出納官吏

第二十六條　政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クヘシ

第二十七條　前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計檢査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十八條　現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條　仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章　雜則

第三十條　特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得
特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十一條　政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章　附則

第三十二條　本法ノ條項帝國議會ニ關渉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關渉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス
決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

第三十三條　本法ノ條項ト抵觸スル法令ハ各〻其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

○勅令

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名　御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣　伯爵黑田清隆
樞密院議長　伯爵伊藤博文
外務大臣　伯爵大隈重信
海軍大臣　伯爵西鄕從道
農商務大臣　伯爵井上馨
司法大臣　伯爵山田顯義
大藏大臣兼内務大臣　伯爵松方正義
陸軍大臣　伯爵大山巖
文部大臣　子爵森有禮

遞信大臣　子爵榎本武揚

勅令第十一號

貴族院令

第一條　貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一　皇族

二　公侯爵

三　伯子男爵各〻其ノ同爵中ヨリ選擧セラレタル者

四　國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五　各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國税ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第二條　皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條　公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

第四條　伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歳ニ達シ各〻其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ數ハ伯子男爵各〻總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

第五條　國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

第六條　各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國税ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國税ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第八條　貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條　貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選擧ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條　議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條　議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラルヘシ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ

第十二條　此ノ勅令ニ定ムルモノヽ外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條　將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

官報 號外

明治二十二年二月十一日 月曜日 内閣官報局

○勅令

朕憲法ヲ發布スルニ當リ此盛典ヲ表シ恵澤ヲ施サンカ爲ニ特ニ命シテ左ノ條項ニ依リ大赦ヲ行ハシム

御名御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
樞密院議長 伯爵伊藤博文
外務大臣 伯爵大隈重信
海軍大臣 伯爵西鄕從道
農商務大臣 伯爵井上馨
司法大臣 伯爵山田顯義
大藏大臣兼内務大臣 伯爵松方正義
陸軍大臣 伯爵大山巖
文部大臣 子爵森有禮
遞信大臣 子爵榎本武揚

勅令第十二號

第一條 本令發布以前ニ於テ左ノ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

一 刑法第百十七條第百十九條ノ罪

二 刑法第百二十一條第百二十三條第百二十五條第百二十六條第百二十七條ノ罪

三 刑法第百二十九條第百三十條第百三十一條第百三十二條第百三十三條第百三十四條ノ罪

四　刑法第百三十六條第百三十七條第百三十八條ノ罪
五　刑法第百四十一條ノ罪
六　陸軍刑法第五十條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條ノ罪
七　陸軍刑法第六十六條第六十七條ノ罪
八　陸軍刑法第六十九條第七十條第七十一條ノ罪
九　陸軍刑法第九十三條第九十四條ノ罪
十　陸軍刑法第百九條第百十條ノ罪
十一　海軍刑法第五十六條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條ノ罪
十二　海軍刑法第八十六條第八十七條ノ罪
十三　海軍刑法第百條第百一條ノ罪
十四　海軍刑法第百十條第百十一條ノ罪
十五　海軍刑法第百二十六條ノ罪
十六　保安條例ノ罪
十七　集會條例ノ罪
十八　治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ爆發物取締罰則ヲ犯ス罪
十九　新聞紙條例第二十一條第二十二條ニ違ヒ第三十條第三十一條ニ該ル罪及ヒ第三十二條ヲ犯ス罪但第三十條ニ該ル者ノ內風俗ヲ壞亂スルカ爲メ發賣頒布ヲ禁セラレタル新聞紙ヲ發賣頒布シタル者ハ赦免セス
二十　政治ニ關スル意思ヲ以テ同條例第一條第三條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪及ヒ第十六條第十七條第十八條ニ違ヒ第二十九條ニ該ル罪
出版條例第十六條第十七條第十八條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪及ヒ第二十四條ヲ犯ス罪但第二十七條ニ該ル者ノ內風俗ヲ壞亂スルカ爲メ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布シタル者ハ赦免セス
政治ニ關スル意思ヲ以テ同條例第三條ニ違ヒ第二十一條ニ該ル罪第六條第七條ニ違ヒ第二十二條第二十三條ニ該ル罪及ヒ第十五條第十九條第二十條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪

第二條　舊法ニ依リ處斷セラレタル罪ト雖モ其性質前條ニ記載シタル罪ト同一ナル者ハ之ヲ赦免ス
第三條　數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者最重ノ罪赦免ヲ得タル場合ト雖モ他ノ罪ニ其効ヲ及ホサス
第四條　赦免ヲ得ルト雖モ既ニ徵收シタル罰金科料及ヒ沒收シタル物件ハ還付セス
第五條　陸軍大臣海軍大臣司法大臣ハ本令ノ施行ニ關シ必要ノ指揮ヲ爲ス可シ

○訓令

陸軍省訓令甲第二號

各師團及廳府縣 除東京府

勅令第十二號ニ依リ施行手續相定候條右手續ニ據リ施行ス可シ

明治二十二年二月十一日

陸軍大臣伯爵大山巖

大赦施行手續

第一條　勅令第十二號第一條ニ記載スル罪ヲ犯シタル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否トヲ問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終ハリタルト否トヲ別タス總テ赦免ヲ得ル者トス

第二條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付キ刑ノ宣告ヲ受ケ其執行ヲ終ヘサル者衛戍監獄ニ在ルトキハ監獄長裁判宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル師團長若クハ旅團長ニ申報シ陸軍裁判所若クハ軍團裁判所ニ於テ裁判宣告ヲ爲シタルモノハ第一師團長ニ申報ス可シ

罰金ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル者アルトキハ理事長官ノ認可ヲ得赦免ヲ得タル旨ヲ本人ニ通知ス可シ

第三條　赦免ヲ得ヘキ者衛戍監獄以外ノ監獄ニ在ルトキハ司獄官前條ニ記載シタル長官ニ申報ス可シ

第四條　赦免ヲ得ヘキ者假出獄ヲ許サレ營内ニ在ルトキハ所屬隊長第一條ニ記載シタル長官ニ申報ス可シ

第五條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付キ監視若クハ特別監視執行中ノ者ハ執行地ノ警察官第一條ニ記載シタル長官ニ申報ス可シ

第六條　師團長旅團長前數條ニ記載シタル申報ヲ受ケタルトキハ理事ニ付シ其調査ヲ爲サシメ赦免ヲ得タルニ付キ釋放スヘキ旨ヲ通知ス可シ

第七條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付キ審問若クハ判決ニ著手中ノ者ハ陸軍治罪法ニ從ヒ免訴ノ處分ヲ爲ス可シ

第八條　數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者若クハ數罪併科セラレ若クハ刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ刑ノ宣告ヲ受ケタル者現ニ執行ヲ受ケタル罪ノ赦免ヲ得タルニ因リ更ニ赦免ヲ得サル罪ノ刑ヲ執行スヘキトキハ赦免ヲ得タル罪ニ付キ執行シタル刑ヲ通算ス

前項ノ場合ニ於テ更ニ執行スヘキ刑期金額裁判宣告書ニ疑點アルモノハ理事訴訟書類及ヒ例證等ヲ調査シ長官ノ認可ヲ得刑期金額ヲ定ム可シ

第九條　勅令第十二號ニ照シ治安ヲ妨害スルノ目的ニ出テ若クハ政治ニ關スル意思ニ出テタル等ノ區別ヲ審辨スヘキ犯罪ニ付テハ理事發行シタル新聞紙又ハ出版シタル文書圖畫ノ性質其他裁判宣告書ニ記載シタル事實ノ模様ニ因リ之ヲ查定ス可シ

第十條　師團長旅團長大赦ノ施行ニ付キ疑議アルトキハ陸軍大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フ可シ

第十一條　遠隔ノ地ヨリ大臣長官ニ稟請若クハ申報ヲ爲シ及ヒ長官遠隔ノ地ニ通知スルトキハ電報ヲ用ユ可シ但電報ニテ事情ヲ悉クス能ハサルモノハ此限ニ在ラス

第十二條　大赦施行ノ處分ヲ爲シタル者ハ第一條ニ記載シタル長官ニ申報ス可シ長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ申報ス可シ

第十三條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ執行ヲ終ハリタル者ヨリ赦免ヲ得タルノ證明ヲ請フトキハ理事事實ヲ調査シ長官ノ認可ヲ得證明ヲ與フ可シ

海軍省訓令第一號

横須賀鎭守府司令長官
廳　府　縣 東京府ヲ除ク

勅令第十二號第五條ニ依リ施行手續相定候條右手續ニ依リ施行ス可シ

明治二十二年二月十一日

海軍大臣伯爵西鄕從道

大赦施行手續

第一條　勅令第十二號第一條ニ記載スル罪ヲ犯シタル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否トヲ問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否トヲ別タス總テ赦免ヲ得ル者トス

第二條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ宣告ヲ受ケ其執行ヲ終ヘサル者海軍監獄ニ在ルトキハ監獄署長横須賀鎭守府司令長官ニ申報ス可シ

罰金ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル者アルトキハ主理同司令長官ノ認可ヲ得赦免ヲ得タル旨ヲ本人ニ通知ス可シ

第三條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付海軍法衙ニ於テ刑ノ宣告ヲ受タル者海軍部外ノ監獄ニ在ルトキハ司獄官横須賀鎭守府司令長官ニ申報ス可シ

第四條　赦免ヲ得ヘキ者假出獄ヲ許サレ艦船營内ニ在ルトキハ艦船營長其所屬司令長官若クハ司令官ニ申報ス可シ

司令長官若クハ司令官ハ他ノ司令長官若クハ司令官管轄ノ軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ爲シタル者ニ係ルトキハ其司令長官若クハ司令官ニ協議ス可シ

第五條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付監視若クハ特別監視執行中ノ者ハ執行地ノ警察官横須賀鎭守府司令長官ニ申報ス可シ

第六條　横須賀鎭守府司令長官前數條ニ記載シタル申報ヲ受ケタルトキハ主理ニ付シ其調査ヲ爲サシメ赦免ヲ得タル旨ヲ通知ス可シ

第七條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付審問若クハ判決ニ著手中ノ者ハ海軍治罪法ニ從ヒ免訴ノ處分ヲ爲ス可シ

第八條　數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者若クハ數罪併科セラレ若クハ刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ刑ノ宣告ヲ受ケタル者現ニ執行ヲ受ケタル罪ノ赦免ヲ得タルニ因リ更ニ赦免ヲ得サル罪ノ刑ヲ執行スヘキトキハ赦免ヲ得タル罪ニ付執行シタル刑ヲ通算ス

前項ノ場合ニ於テ更ニ執行スヘキ刑期金額裁判宣告書ニ疑點アルモノハ主理訴訟書類及ヒ例證等ヲ調査シ司令長官ノ認可ヲ得刑期金額ヲ定ム可シ

第九條　勅令第十二號ニ照シ治安ヲ妨害スルノ目的ニ出テ若クハ政治ニ關スル意思ニ出テタル等ノ區別ヲ審辨スヘキ犯罪ニ付テハ主理發行シタル新聞紙又ハ出版シタル文書圖畫ノ性質其他裁判宣告書ニ記載シタル事實ノ摸樣ニ因リ之ヲ查定ス可シ

第十條　司令長官若クハ司令官大赦ノ執行ニ付疑議アルトキハ海軍大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フ可シ

第十一條　前數條ニ依リ大臣司令長官若クハ司令官ニ申報シ及ヒ司令長官司令官遠隔ノ地ニ通知スルトキハ電報ヲ用ユ可シ但其事情ヲ悉クス能ハサルモノハ此限ニ在ラス

第十二條　大赦執行ノ處分ヲ爲シタル者ハ横須賀鎭守府司令長官ニ申報ス可シ司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ申報ス可シ

第十三條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ執行ヲ終リタル者ヨリ赦免ヲ得タル旨ノ證明ヲ請フトキハ主理事實ヲ調査シ司令長官ノ認可ヲ得證明ヲ與フ可シ

司法省訓令第三號

検事長　検事　廳府縣（東京府ヲ除ク）

本年勅令第十二號ヲ以テ大赦ノ儀公布相成候ニ付テハ右施行方左ノ手續ニ從フヘシ

明治二十二年二月十一日　　司法大臣伯爵山田顯義

大赦施行手續

第一條　本年勅令第十二號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ヲ犯シタル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否トヲ問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否トヲ別タス總テ赦免ヲ得ル者トス

第二條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ其言渡未タ確定セサル者言渡確定スルモ未タ其執行ニ著手セサル者及ヒ其執行中ニ係ル者ニ對シテハ原裁判所ノ檢察官ヨリ速ニ赦免ヲ得タル旨ヲ通知シ在監中ノ者ハ之ヲ放免スヘシ

第三條　數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者若クハ數罪併科セラレタル者又ハ刑期限內再ヒ罪ヲ犯シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者赦免ヲ得タルニ因リ更ニ赦免ヲ得サル罪ノ刑ヲ執行スヘキトキハ赦免ヲ得タル罪ニ付執行シタル刑ヲ通算ス

若シ數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者ノ裁判言渡ニ疑點（裁判言渡中赦免ヲ得タル罪ノミニ付刑期金額ヲ示シ其他ノ罪ニ付テハ之ヲ示サヽルノ類）アルトキハ檢察官ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所エ其說明ヲ請フヘシ

第四條　赦免ヲ得ヘキ囚人原裁判所ノ管轄地外ノ監獄ニ在ルトキハ典獄ヨリ最近ノ始審裁判所（本廳又ハ支廳）檢察官ニ通知スヘシ

通知ヲ受ケタル檢察官ハ第二條ノ處分ヲ爲スヘシ若シ其囚人ノ裁判言渡ニ付原裁判所ノ說明又ハ訴訟書類ノ取調ヲ要シ直ニ處分ヲ爲シ難キ場合ニ於テハ其事件ヲ原裁判所ノ檢察官ニ送致スヘシ

通知ヲ受ケタル檢察官第二條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ原裁判所ノ檢察官ニ通知スヘシ

第五條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付監視又ハ特別監視執行中ニ係ル者ハ執行地ノ警察官ヨリ原裁判所ノ檢察官ニ通知スヘシ若シ其執行地原裁判所ノ管轄地外ニ係ルトキハ最近ノ始審裁判所（本廳又ハ支廳）檢察官ニ通知スヘシ

通知ヲ受ケタル檢察官ハ監視又ハ特別監視ヲ免スルノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付豫審又ハ公判中ニ係ル事件ニ付テハ檢察官（上訴中ノ事件ニ付テハ其上訴ヲ受ケタル裁判所ノ檢察官）ヨリ公訴ヲ拋棄スルノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ其執行ヲ終リタル者ヨリ赦免ヲ得タル旨ノ證明ヲ請フトキハ檢察官ニ於テ事實ヲ精查シ證明ヲ與フヘシ

第八條　勅令第十二號第一條第十九項第二段及ヒ第二十項第二段ニ記載シタル犯罪ニ付テハ檢察官ニ於テ發行シタル新聞紙又ハ出版シタル文書圖畫ノ性質其他裁判言渡ニ認メタル事實ニ因リ政治ニ關スル意思ニ出テタル者ナルト否トヲ查定スヘシ

第九條　大赦ノ施行ニ付疑ヒアルトキハ檢察官ヨリ速ニ司法大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十條　大赦ノ施行ニ關スル處分ハ檢察官ヨリ速ニ司法大臣ニ報告スヘシ

○告示

陸軍省告示第一號

勅令第十二號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ニ付キ刑ノ宣告ヲ受ケ既ニ其執行ヲ終リタル者ニシテ赦免ヲ得タルノ證明ヲ得ント欲スルトキハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ理事ニ申出テ陸軍裁判所若クハ軍團裁判所ニ於テ其宣告ヲ受ケタル者ハ第一師管軍法會議ノ理事ニ申出ツ可シ

明治二十二年二月十一日　　陸軍大臣伯爵大山巖

海軍省告示第三號

勅令第十二號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ニ付キ海軍法衙ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケ其執行ヲ終リタル者ニシテ赦免ヲ得タル旨ノ證明ヲ得ント欲スルトキハ横須賀鎭守府軍法會議ノ主理ニ申出ツ可シ

明治二十二年二月十一日　　海軍大臣伯爵西鄕從道

司法省告示第二號

本年勅令第十二號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ其執行ヲ終リタル者ニシテ赦免ヲ得タル旨ノ證明ヲ得ント欲スルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ申出ツヘシ

但明治十四年以前司法省佐賀、萩、九州、其他ノ臨時裁判所ニ於テ處斷ヲ受ケタル者ハ大審院檢事長ニ申出ツヘシ

明治二十二年二月十一日　　司法大臣伯爵山田顯義

官報　號外
明治二十二年二月十一日　月曜日　内閣官報局

○達

宮内省達第二號

皇族列次ハ實系ノ遠近ニ從ヒ　皇位繼承ノ順序ニ依ル但シ親王敍品宣下アリシ者ニ限リ特殊ノ席次ヲ以テシ一般ノ列次左ノ通定ム

熾仁親王
晃親王
彰仁親王
貞愛親王
朝彦親王
能久親王
威仁親王
載仁親王
依仁親王
栽仁王
邦芳王
博恭王
菊麿王
成久王
恒久王
輝久王
邦憲王
邦彦王
守正王
多嘉王
鳩彦王
稔彦王

明治二十二年二月十一日

奉勅　宮内大臣子爵土方久元

○宮廷錄事

○告文　今十一日午前第九時御豫定ノ通御祭典行ハセラレ　神靈ヘノ告文ハ別紙ヲ以テ配布セラル

官報 號外
明治二十二年二月十一日 月曜日 内閣官報局

○叙任及辭令

○明治二十二年二月十一日

賜旭日桐花大綬章 樞密院議長從二位勳一等伯爵 伊藤博文
贈正三位 故西郷隆盛
贈正四位 故藤田誠之進
贈正四位 故佐久間修理
贈正四位 故吉田寅次郎
叙正四位 伊藤十藏
叙正四位 副島利忠
叙從四位 土方久用
叙從四位 山尾忠治郎
叙從四位 井上逸叟
叙從四位 山岡信吉
叙從五位 松木朝彥

鹿兒島縣知事 渡邊千秋
憲法發布並皇室典範御治定ニ付申告トシテ故前左大臣公爵島津久光墓前ヘ勅使參向被仰付

山口縣知事 原保太郎
憲法發布並皇室典範御治定ニ付申告トシテ贈從一位毛利敬親墓前ヘ勅使參向被仰付

掌典子爵 千種有任
憲法發布並皇室典範御治定ニ付明十一日申告トシテ贈正二位鍋島直正贈從一位山内豐信墓前ヘ勅使參向被仰付(以上二月十日 宮内省)

故西郷隆盛
特旨ヲ以テ正三位ヲ被贈

故藤田誠之進
故佐久間修理
故吉田寅次郎
(各通)
特旨ヲ以テ正四位ヲ被贈

伊藤十藏
副島利忠
(各通)
特旨ヲ以テ正四位ニ被叙

土方久用
山尾忠治郎
井上逸叟
山岡信吉
(各通)
特旨ヲ以テ從四位ニ被叙

松木朝彥
特旨ヲ以テ從五位ニ被叙(以上二月十一日同)

○宮廷錄事

◉御親祭並ニ憲法發布式御摸樣 今十一日ハ午前第八時三十分ヲ以テ親王大勳位内閣總理大臣親任官公爵勳一等在京勅任官師團長鎭守府司令長官陸海軍將官北海道廳長官府縣知事控訴院檢事長麝香間祗候侯爵勳二等勳三等及伯爵總代子爵總代男爵總代在京奏任官三等以上始審裁判所長始審裁判所上席檢事内閣樞密院諸省元老院警視廳ノ奏任官四等以下總代每廳各三名北海道廳府縣奏任官四等以下ノ總代三名府縣會議長等御祭典ニ著床第九時 出御御親祭畢リテ 入御第十時憲法發布式内閣總理大臣以下御親祭著床ノ諸員入場外國公使並ニ公使館員勅任取扱雇外國人勳三等以上外國人等各拜觀ノ席ニ就キ尋テ 出御高御座ニ 立御 皇后宮繼テ御入場内大臣高御座ニ進テ憲法ヲ奉ル勅語アリ憲法ヲ總理大臣ニ下付セラレ總理大臣進ミテ敬禮シ拜受シテ退ク式畢リテ 入御 皇后宮從テ入御アラセラレ各員順次退出セリ 出御御列並ニ式場圖ハ左ノ如シ

正殿式場ノ圖

○觀兵式場臨幸御摸樣　今十一日ハ嚢ニ仰出タサレシ如ク午後一時御出門觀兵式場ヘ臨幸アラセラレ鹵簿其他都テ御豫定ノ通ニシテ親任官ハ便宜先著式畢リテ五時還幸アラセラレタリ御出門ニ際シテハ警視廳高等官ノ内及文部省直轄學校學生生徒近縣師範學校生徒等宮城下ニ整列シテ奉拜シ學習院生徒東京農林學校學生生徒府會議員等ハ各便宜ノ所ニ於テ奉拜セリ

○行幸啓仰出　明十二日午後一時三十分御出門　聖上　皇后宮御列ニテ上野邊ヘ行幸行啓アラセラルヘキ旨今十一日仰出タサル御道筋ハ左ノ如シ

宮城正門ヨリ櫻田門ヲ出テ外務省前左ヘ東京府廳前幸橋ヲ過キ左ヘ二葉町左ヘ新橋ヲ渡リ京橋日本橋萬世橋黒門町通上野公園内華族會館ヘ着御御少憩

公園ヨリ廣小路右ヘ男阪通左ヘ天神下通萬世橋ヲ渡リ淡路町錦町ヲ經神田橋ヲ渡リ和田倉門ヨリ正門ヘ還幸

○勅使發遣　今十一日憲法發布式ヲ行ハセラレタルニ付キ午後靖國神社ヘ奉告岩倉贈太政大臣大久保贈右大臣山内贈從一位(豐信)鍋島贈正二位(直正)ノ墓ヘ申告ノ勅使夫〻發遣相成リタリ

○恩賜　伯爵伊藤博文父正四位伊藤十藏ハ七十四歳ノ高齡ニ付キ　思食ヲ以テ御紋付御盃一箇酒肴料五圓ヲ伯爵副島種臣養父正四位副島利忠ハ八十三歳子爵土方久元父從四位土方久用ハ八十一歳子爵山尾庸三父從四位山尾忠治郎ハ八十歳子爵井上勝養祖父從四位井上逸叟ハ八十三歳ノ高齡ニ付キ　思食ヲ以テ御紋付御盃(三重)一組酒肴料二十五圓ヲ孰モ今十一日下賜セラレタリ

○高年者恩賜　今十一日憲法發布式ノ盛典ヲ表セラルヽタメ養老ノ　思食ヲ以テ各府縣下高年者八十歳以上ニ各〻金五十錢九十歳以上ニ各〻金一圓百歳以上ニ各〻金一圓五十錢ヲ下賜セシレ宮内大臣ヨリ地方長官ヘ頒賜方至急取計フヘキ旨ヲ達セラレタリ

物価号外